

住民説明会の開催結果について

① 概要

令和8年度を初年度とする第3次西和賀町総合計画基本構想・前期基本計画（案）の概要を説明し、住民から意見や要望を伺うため、町内6か所において住民説明会を開催しました。

② 実施日、参集人数等

(人)

日 程	会 場	参集人数		
		男性	女性	合計
2月3日(火)	猿橋やまびこ館	11	3	14
2月4日(水)	新町公民館	11	2	13
2月6日(金)	若畑公民館	9	1	10
2月8日(日)	湯田庁舎	2	1	3
	オンライン	3	3	6
2月9日(月)	旧新田郷地区公民館	12	2	14
2月13日(金)	まちなか交流館	10	6	16
合 計		58	18	76

③ 住民説明会での主な質問、意見等

区 分	主な質問や意見等
計画策定について	<ul style="list-style-type: none"> ・計画素案について、今日は概要説明資料だったが、町民が目にすることができるようしてほしい。 ・計画が決まった後も、町民に対して、普及啓発を行う必要があるのではないか。 ・空き家が増え、旅館、宿泊施設が減っている。耕作放棄の農地が目立つなど、地域課題に対して、解決に取り組む、前向きな話題を示してほしい。 ・高齢化、人口減少、人材不足の中、町の将来像を示す計画なので、住民に知らせることが大事だ。 ・計画の進捗管理、評価については、どのように行うことになっているのか。計画を作って終わりではなく、この点が大事である。 ・総合計画の普及啓発について、役場職員による出前講座を平日の日中だけでなく、夜や休日にも行ってほしい。住民として、知ることが大事なので、説明機会を持つことを要望していきたい。 ・計画案への意見を公募しているとの説明だったが、インターネットを使えない人は、役場の窓口で閲覧することができるのか。印刷したものを

入手することができるようにしてほしい。

- ・人口減少、少子化、高齢化などの課題について、計画案に示されている対策はどのような内容なのか。示してほしい。
- ・総合計画は、今後の町のめざす方向性を示すものであると思う。その点がわかりにくいので、全体的に、どのような方向か明示してほしい。
- ・今日の説明会は3つの重点戦略を中心に説明しているが、今日の質疑のように、細かな点についての説明会は別に行う予定はあるのか。
- ・これだけの大量の内容について、細かな内容について聞きたいという機会は必要だと思う。どの自治体もそのように進めているのかもしれないが、丁寧な説明になっているか疑問である。もう少し工夫する余地があるのではないか。
- ・パブリックコメントの実施に向けて、町のホームページにアクセスできるQRコード等をつけたお知らせ文書を説明会でも提供する必要があるのではないか。
- ・平成17年の合併時の人口7,300人が現在は4,400人で3,000人減った。少子高齢化というより、大変な人口減少であることを共通の認識として示すべきだ。その点を明示するように、サブタイトルとして「人口減少時代におけるまちづくり・行財政運営」といったフレーズを加えてはどうか。
- ・町の人口減少が地域の活動や団体の運営に影響を及ぼしている。それを前提に、避けて通れない現状として、町民の認識とする必要があるだろう。
- ・少子高齢化と一括りにするのではなく、生産年齢人口が減っていることを重視すべきである。自治の担い手となる人材の不足など、現状分析と認識を前提に計画の中身に入っていくような構成が望ましい。
- ・4つの柱について、以前、町長がまちづくりのテーマに「雪」を示していたと記憶している。今回の計画においても、太い柱として「雪」を示す必要があるのではないか。
- ・西和賀に移住してきて、食べもの、薪、水など蓄積があり、もし災害があっても、自力で生き伸びることのできる地域と感じている。また、地域の高齢者の知恵やたくましさから様々教えて頂き、暮らしてきた。西和賀の人はたくましいので、計画に示されている「町が支援する」というスタンスだけでなく、自ら実践している健康づくりをはじめ、地域活動の「自力」や「自立」といったキーワードについても、取組の柱として盛り込めないか。
- ・大災害など何が起きてもおかしくないような状況なので、災害時の受け入れが可能なことなど、地域としての強みを示せないか。
- ・行財政運営について、財政が厳しい中での「健全化」を保つということと思うが、複合拠点施設の整備、学校の統廃合、水道施設の更新など、多額のお必要がかかることになる。充分検討して頂きたい。

	<ul style="list-style-type: none"> ・計画の期間について、町長の任期が4年なので、合わせるという考えもあるのではないか。 ・10年間の計画ということだが、毎年進捗状況を確認しながら進めるのか。また、その結果については、町政懇談会で報告してほしい。 ・町の将来像、4つの基本目標、3つの重点戦略について、それらの関係をわかりやすく示してほしい。 ・町の将来像について、「豊かな自然」とあるが、ユネスコ・エコパークの認定を目指し、エコスクールの取組を進めてほしい。 ・将来の町の姿については、住民の意向と町のトップの判断ということになるのか。
<p>重点戦略について</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・三つの重点戦略が示されているが、住民懇談会、町民アンケート、関係者ヒアリングなどの結果をふまえたものなのか（住民の考えていることと、必ずしも一致していないように感じる）。 ・重点戦略の内容は、いずれもやらなくてはならないものと思うものの、この3つだけでよいのか疑問を感じる。もっと町民の暮らしを重視した内容を、重点的な取組に入れてはどうか。 ・説明にあった「学び」は、非常に重要と感じている。西高魅力化の取組と共に、町民全体を考えて、社会教育、保育所や小中学校での学びも含めて進める必要があるのではないか。 ・4つの目標に示されている、教育や暮らしに関連した重点的な取組について、重点戦略として示してはどうか。 ・複合拠点施設（道の駅）の総事業費は、どの程度を想定しているのか。整備の時期はいつ頃想定しているのか。 ・新しい道の駅が整備された場合、現在の施設はどうなるのか。 ・複合拠点の整備では、「防災機能を備える」という説明があったが、どのような内容なのか。 ・複合拠点施設の整備について、さわうち病院の向かいに、スーパーオセンが移転すると聞いたが、オセンとの協議の状況、整備と開業の時期について、伺いたい。 ・複合拠点施設の整備について、括弧書きで道の駅と記載されているのは、現時点で明記できないという事情があるのか。 ・複合拠点施設の整備計画について、大野地区に決まったのか。検討の経過や計画案の内容など、住民に公表してもらいたい。 ・3つの重点戦略は、計画を進めるエンジンという説明だったが、複合拠点施設の整備については、整備後に動き出すように感じた。4～5年かかるのであれば、開業までの取り組み、準備についても計画に示す必要があり、その際、町民の参加が必要ではないか。 ・3つのエンジンの説明の中で「関係人口を増やす」ということだったが、「関係人口」について、分かりやすく説明してほしい。 ・関係人口を増やすとしたら、PRが大事である。イベントのお知らせを

	<p>してはどうか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・今回、町の発信力を高めて、その中で、ふるさと宅配便を再度盛り上げるできないか。 ・都会に出ている出身者がたくさんいると思うので、情報を伝え、関係を深めることは大事だと思う。 ・西高の魅力化、複合拠点施設、ユキノチカラの取り組み、それぞれ時間と費用がかかると思われ、財政的的な面、投資と回収、費用対効果についての見通しを示してほしい。
産業の振興	<ul style="list-style-type: none"> ・農業や観光の振興についての考え方はどうなっているのか。もっと明確に示す必要があると思う。 ・酪農について、YUDA ミルクでは、加工を縮小していると聞いたが、どうなっているのか、外部委託は、本来の姿と異なっているのではないか。 ・今後の農業の方向として、法人経営の推進があげられていた。現在、担い手となっている法人では、条件の良くない山際の農地での耕作をやめたいという傾向にある。地域でも農地としての維持が困難になっているので、町として対策を考えてほしい。 ・町内の全て宿泊施設について検索できるような「宿泊予約サイト」があると便利である。 ・理美容店について、サービス内容や利用状況が分かるような「予約サイト」の構築を望む。 ・産業振興では、多様で魅力のある新たなものを目指すように読めるが、内容について、どんなものがあるか。これまでになかった新しい産業の振興を進めてほしい。 ・10年後を想像すると、今よりもさらに人口が減り、建設業や製造業、介護事業など、人材不足が進むものと想像する。働く人の確保について、どのように考えているのか。 ・人口減少の要因となっている社会増減への対策、働く人材の確保のアイデアとして、退職した自衛官の方々の移住を促してはどうか。除雪機械のオペレーターや建設業の担い手として、活躍する場となるのではないか。
人材育成	<ul style="list-style-type: none"> ・西高の取組が成果をあげている中、今後の期待として、町内事業所への就職や、進学後に戻ってくることにつながるような取組を進めてほしい。 ・子どもたちに、どうなってほしいか。教育のめざすところを示す必要があるのではないか。 ・空き家や空き店舗について、地域の生涯学習拠点として利活用すると良いのではないか。 ・西和賀高校の2学級化は良かった。今後、外からの入学者確保を継続する事と、卒業後に町内に残ったり、進学後戻って来たりするように促す取組が大事である。 ・学校に適応できない子どもたちに対して、それぞれの状況に応じた支援

	<p>を充実することを望む。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校での対応に加え、家庭の問題については、ソーシャルワーカーによる支援が必要と思われる。 ・地域における居場所づくりも大事である。 ・部活動の地域展開に向けて、地域総合型スポーツクラブの体制づくりなど進めてほしい。 ・各学校の文化部について、活動が限られている状況にある。地域においては、田植踊りの保存会など、活動の継承が困難なところもあるため、地域で対応できる体制づくりが必要と感じている。 ・教育の分野が「人材育成」となっているが、教育の目的は、教育基本法第1条により「人格の完成」と「社会の形成者の育成」「心身の健康」と定められている。地域社会への貢献は大事な視点と思われるが、人材育成が主な目的ではないと思う。西和賀高校で学ぶ生徒は、「学びたい、自分の思いを叶えたい」と考えているのではないか、その点を大事にしてほしい。 ・コミュニティ活動、除雪ボランティア、関係人口や移住定住人口など、人、担い手が重要なことが共通していると再認識した。人をどう育てるか、そこに力をいれることを、メッセージとして、計画の中に込めてはどうか。 ・将来像に示されている「学び」について、どんな内容が想定されているのか（西高の魅力化、保・小・中、生涯学習など幅広い取り組み、豊かな自然を生かした内容を目指してほしい）。 ・町の特徴として、銀河ホールがあり、様々な活動が行われている。芸術・文化に触れる場として、賑わい創出に果たす役割が大きいと思われるので、計画の中に明記してほしい。
健康・福祉	<ul style="list-style-type: none"> ・人口減少が大きな課題である。人口構成の分析と対策、「適齢期」の年齢層における暮らしの課題を把握し、必要な支援を検討することが重要と感じている。重点的な取組として、結婚、出産、子育てなど、安心な暮らしの支援の充実を図る必要がある。
生活環境・基盤	<ul style="list-style-type: none"> ・雪が多く、除雪事故が身近で起きている。 ・安全快適な暮らしに向けて、例えば今年のように雪が多い年は特に、高齢者世帯の除雪が身近な問題となっている。生活の安全について、もっと力を入れる必要がある。 ・安全安心の確保、除雪について、町道除雪は基本と思われ、加えて、高齢者宅の除雪が重要と思う。この点について、もっと重視してほしい。 ・防災、インフラを考えた時、西和賀では「除雪」が第一に来るが、オペレーターのなり手が不足している。人材確保についての工夫、何か実行力のあるやり方が必要と感じている。 ・高齢者世帯の除雪について、除雪車が雪の塊を家の前に寄せていくことがあるため、配慮してほしいという地域からの声がある。

- ・安全安心な生活環境について、町営住宅にエアコンがないところに設置する必要があると感じている。
- ・集会施設へのエアコン設置について、行政区に複数あるところも含めて、設置を進めてほしい。
- ・町の誘致によって工場が建設され、閉鎖しているところについて、地域住民による周辺の維持管理作業では限度があるので、町として建物を壊すなどの対応をしてほしい。
- ・所有者の管理による場合は、町として、維持管理を促すなど、連絡を取ってほしい。
- ・公共施設跡地の解体について、10年間の計画にどのように位置づけられているのか。
- ・熊の出没について、志賀来では動物園のような状況になっている。他の地区でも同様と思われるが、全町的な問題として、対策はどのようになっているのか。対策を強化してほしい。
- ・クマと遭遇した際の対応について講習会を受講していたが、実際の場面では、うまく対応ができなかった。より実践的な内容で、繰り返し学ぶことが大事だと感じている。
- ・町民向けの情報発信の充実に向けて、LINEをもっと活用しても良いのではないか。
- ・町道東側幹線の湯本への降り口付近、倉庫が解体されたところから誤って道から外れると川に落ちてしまうので、ガードレール等の対応策を検討してほしい。
- ・人口減少が進む中、個々の世帯の移転によって居住地を集約させる「スモールタウン構想」を考えているのか。
- ・2050年の人口が2,000人になるという推計があり、そうなると、居住地の集約も一つの選択肢、方向性になるのではないか。ただ、全国的に見ると、人口2,000人程度でも元気なところがあるので、そういった事例を参考にしてまちづくりを進めることも考えられるのではないか。
- ・パブリックコメントで公開されている計画（案）を見たが、地域づくり活動に関して、今後、町は、町があまり関わらず地域の力に任せるのか、町が関わっていくのか、どのように関わっていくのか、町の方針が分かりにくい。自治会や公民館運営組織などの組織がある中、この10年、町はどのような方向で進めていこうとしているのか示してほしい。
- ・集落支援員を配置して、中心になってもらい活動を進めるといように読めるが、どうなのか。
- ・集落支援員の配置について、現状ではどう考えれば良いかわからず、不安しかない。フルタイムで各地区にはり付けるのか。そうするとかなりの人件費になるが、予算も莫大になるのではないか。
- ・集落支援員が配置された場合、町の関わりはどうか。
- ・前提として、今まで現状維持でやってきた事業ではなく、発展性や新規

性があるものが集落支援員を配置する条件となるのか。また、配置したことによる成果が問われることになるのではないか。

- ・集落支援員については、これまで6地区に1名の配置から、各自治会への配置に変わったことは歓迎だが、財源については、国の制度がいつまで続くのか心配である。各集落が人を雇うというのであれば、これから20年、30年と身分を保証出来ることが必要と思う。財源の確保、雇用の継続など、町として、取り組んでいく覚悟を持って進めてほしい。
- ・国が想定している集落支援員は、町内の全ての自治会への配置は想定していないのではないか。他の自治体にならぬ取組を進めるのは良いが、途中でブレーキがかからないか心配である。国の制度変更への備えは必要と思う。財源がなくなっても継続できるようにしていただきたい。
- ・各自治会で配置を検討した場合、年度の途中から開始したいということも考えられる。雇用するということになれば、自治会の年度予算として組む必要もある。地域の事情にも配慮した進め方を望む。
- ・集落支援員が外部から入る場合、地域とのマッチング、人と人との出会いが重要な要素になると考えられるので、地域おこし協力隊として、お試し期間を設定して活動してもらうような進め方も選択肢として示して頂くなど、想定されるいくつかのパターンを検討し提示してほしい。
- ・情報インフラとして、テレビの受信のための共同アンテナで視聴しているが、老朽化が進み更新が必要な時期となっている。多額な必要がかり、地域の負担だけでは無理なため、昨年要望している。次期計画の10年の中で、設置して30年以上経過した古いものから更新を支援する予算を確保して頂きたい。
- ・自然観察会を継続的に行ってきた経験から、町として西和賀の自然に触れる機会づくりが大事で、エコツーリズムを普及する人材育成が重要と感じている。子どもたち、町民を対象に、学ぶ機会を設け、西和賀の自然を理解できるようにする必要がある。
- ・JR北上線のダイヤについて、3月から8時台の便が新幹線につながるようになった。これを機会に、下りの便についても利便性向上も期待したい。
- ・JR北上線については、湯田・横手間の利用をしたいと思うが、便数が限られ、不便な状況にあることから、本数が増えることを期待している。
- ・景観を良くする取組を進めてほしい。提案として、耕作放棄地の活用策について、鳥取大学の研究チームによる調査研究が行われているので、知見を生かしてモデル地区を設定し、景観形成の取組を進めてはどうか。
- ・業務の効率化を図り、空いた時間で新しいことを考えることに使う。必要に応じて、職員数を増やすことや働き方を改善することも検討する必要がある。